

## 幼児教育学科 1年 後期 専門科目

1. 社会福祉
2. 子育て支援
3. 子どもの理解と援助
4. 子ども家庭支援の心理学
5. 子どもの健康と安全
6. 教育課程総論
7. 保育内容総論
8. 保育内容(表現)
9. 保育内容(音楽表現)の指導法
10. 乳児教育Ⅱ
11. 特別の支援を必要とする子どもの理解Ⅰ
12. 幼児と音楽表現Ⅱ
13. 保育実習指導Ⅰ
14. 保育実習Ⅰ
15. 教育実習指導Ⅰ
16. 教育実習Ⅰ

幼児教育学科

1 年

科目名： 社会福祉				担当教員 氏名： 宮嶋 潔					
単 位	開講時期（年次・期）	科目の区分	授業方法	（卒業要件） 必修／選択必修／選択		備考			
2	1年次 後期	専門科目	講義	必修		保育士資格指定科目（必修） 社会福祉主事任用資格			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：			社会福祉士としての実務経験をもとに社会福祉の実際を事例を交えて授業する。						
授業科目の学習教育目標の概要： 社会福祉の基礎的概念や日本および世界の福祉の歴史、福祉に関する法律の変遷などを学ぶことを通して、今後の福祉の方向性について考える。また、現代の福祉の現状について学び、現代社会の福祉課題について理解する。					キーワード 社会福祉の概念、社会保障、 社会福祉援助技術、地域福祉				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9. 10					
A	知識・理解力	社会福祉の概念、歴史、制度、技術について理解することができる。							
B	専門的技術	社会福祉現場をよりよく理解することができる。							
C	論理的思考力	社会福祉が直面している課題について深く考察することができる。							
D	問題解決力	習得した知識などを活用して、現場の問題や課題を解決する試みができる。							
G	倫理観	社会福祉専門職として求められる価値と倫理に従って行動できる。							
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	50 %	レポート：	20 %	発表：	%	実技試験：	%	その他：	30 %
特記事項： 「その他：30%」では、授業態度について評価する。 本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として、グループワークを活用し、学生相互の理解を深める。									
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート <b>グループワーク</b> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：別に定めた日時に実施する。									
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック：実施するテストに評価を付けて学生に返却する。									
授 業 計 画			準備学習（予習・復習等）						
			学習内容	学習に必要な時間（分）					
①社会福祉の基本的考え方			予習：テキストを読む 復習：①の復習	【予習】30分 【復習】30分					
②社会福祉の概念			予習：テキストを読む 復習：②の復習	【予習】30分 【復習】30分					
③社会福祉の歴史（1） 海外			予習：テキストを読む 復習：③の復習	【予習】30分 【復習】30分					
④社会福祉の歴史（2） 日本			予習：テキストを読む 復習：④の復習	【予習】30分 【復習】30分					
⑤社会福祉の法（1） 社会保障・公的扶助			予習：テキストを読む 復習：⑤の復習	【予習】30分 【復習】30分					
⑥社会福祉の法（2） 社会福祉法			予習：テキストを読む 復習：⑥の復習	【予習】30分 【復習】30分					
⑦社会福祉の法（3） 社会保障の関連制度			予習：テキストを読む 復習：⑦の復習	【予習】30分 【復習】30分					
⑧社会福祉の機関と施設 中間振り返り			予習：①～⑦の復習	【予習】30分 【復習】30分					
⑨社会福祉援助の意味			予習：テキストを読む 復習：⑨の復習	【予習】30分 【復習】30分					
⑩社会福祉の援助方法			予習：テキストを読む 復習：⑩の復習	【予習】30分 【復習】30分					
⑪社会福祉援助の専門性とは			予習：テキストを読む 復習：⑪の復習	【予習】30分 【復習】30分					
⑫地域福祉の概念			予習：テキストを読む 復習：⑫の復習	【予習】30分 【復習】30分					
⑬利用者の権利擁護			予習：テキストを読む 復習：⑬の復習	【予習】30分 【復習】30分					
⑭社会福祉の担い手			予習：テキストを読む 復習：⑭の復習	【予習】30分 【復習】30分					
⑮これからの社会福祉の動向 まとめ			予習：⑧～⑭の復習	【予習】30分 【復習】30分					
使用テキスト： 新保育士養成講座第4巻 「社会福祉」 全国社会福祉協議会 ISBN978-4-7935-1090-8				その他参考文献など：					
受講上の留意点（担当者からのメッセージ）： 日頃から新聞・テレビなどを通して、社会福祉関連のニュースに関心を持ってください。									

## 幼児教育学科

科目名: 子育て支援			担当教員 氏名: 江畑 紀子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 保育士として必要とされる資質や保育現場の状況に対応しうる能力について、実務経験を活かして教授し、学生の使命感を高められるよう取り組む									
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
1、保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)についてその特性と展開を具体的に理解する。 2、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。					・子どもの最善の利益 ・保育士の専門性 連携と協働 ・子育てを自ら実践する力				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力			子育て支援の基礎的な知識を身につけ、保育士としての役割について理解できる。						
B 専門的技術			子育て支援に必要な専門的な技術を習得する。						
F チームワーク・リーダーシップ			多様な専門職の連携について対応できる力を養う。						
G 倫理観			保育士としての社会的責任を認識して子どもの最善の利益に配慮できる。						
H コミュニケーション力			他者と信頼関係を築き、目標実現のために協力し、共に育ちあうことができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: ・課題や事例をもとにグループ、クラスでのディスカッションや授業態度、演習、レポートやワークシートの提出状況などで評価する。									
課題解決型学修    ディスカッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション    実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業態度、レポート、ワークシートにより評価する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時のコメントや授業にとりあげるなかでアドバイスをを行う。									
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)						
			学修内容		学修に必要な時間(分)				
① 子育て支援の制度法的基盤について理解する。			【予習】ワークのストーリー①を読む。 【復習】ワークシート①に取り組み提出する。		予習30分 復習30分				
② 子育て支援が求められる社会的背景を把握する。 子育て支援において保育所、認定こども園が果たす役割を知る。			【予習】ワークのストーリー②を読む。 【復習】ワークシート②に取り組み提出する。		予習30分 復習30分				
③ 子育て支援の基盤となる価値・倫理について理解する。			【予習】ワークのストーリー③を読む。 【復習】ワークシート③に取り組み提出する。		予習30分 復習30分				
④ 子育て支援を行うための基本的姿勢を習得する。			【予習】ワークのストーリー④を読む。 【復習】ワークシート④に取り組み提出する。		予習30分 復習30分				
⑤ 子育て支援のプロセスと特徴、コミュニケーション技法を理解する。			【予習】ワークのストーリー⑤を読む。 【復習】ワークシート⑤に取り組み提出する。		予習30分 復習30分				
⑥ 園内、園外との連携、社会資源について理解する。 子ども虐待の予防と対応について理解する。			【予習】ワークのストーリー⑥を読む。 【復習】ワークシート⑥に取り組み提出する。		予習30分 復習30分				
⑦ 記録・評価・研修について理解する。			【予習】ワークのストーリー⑦を読む。 【復習】中間確認演習問題 及び ワークシート⑦に取り組み、提出する。		予習30分 復習1時間				
⑧ 保育所における子育て支援の実際や配慮事項について理解する。 トラブルの際の対応			【予習】ワークのストーリー⑧を読む。 【復習】ワークシート⑧に取り組み提出する。		予習30分 復習30分				
⑨ 保育所における子育て支援の実際や配慮事項について理解する。 一保護者向けの文章の書き方の基本を習得する			【予習】ワークのストーリー⑨を読む。 【復習】ワークシート⑨に取り組み提出する。		予習30分 復習30分				
⑩ 多様な支援ニーズをかかえる子育て家庭について理解する。			【予習】ワークのストーリー⑩を読む。 【復習】ワークシート⑩に取り組み提出する。		予習30分 復習30分				
⑪ 地域子育て家庭に対する支援について理解する。			【予習】ワークのストーリー⑪を読む。 【復習】ワークシート⑪に取り組み提出する。地域子育て支援拠点について調べ、感想を提出する。		予習30分 復習30分				
⑫ 要保護児童の家庭に対する支援について理解する。			【予習】ワークのストーリー⑫を読む。 【復習】ワークシート⑫に取り組み提出する。		予習30分 復習30分				
⑬ 障害のある子どもおよびその家庭に対する支援について理解する。			【予習】ワークのストーリー⑬を読む。 【復習】ワークシート⑬に取り組み提出する。		予習30分 復習30分				
⑭ 特別な配慮を要する子どもとその家庭に対する支援について理解する。			【予習】ワークのストーリー⑭を読む。 【復習】ワークシート⑭ 今後の課題レポートに取り組み提出する。		予習30分 復習1時間				
⑮ まとめと今後の課題<⑧から⑭までの確認演習>			まとめと今後の課題について思考する。		予習30分				
使用テキスト: ①「子育て支援」15のストーリーで学ぶワークブック(萌文書林)二宮祐子著 ※事例、資料など適宜に配布する。			その他参考文献など: ・平成30年「保育所保育指針解説書」厚生労働省編(フレーベル館)・平成30年「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」内閣府 文部科学省・厚生労働省(フレーベル館) ・平成30年「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館) ・日常の保育を基盤とした「子育て支援」一子どもの最善の利益を護るために(萌文書林) ・「演習・保育と子育て支援」(みらい)						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 具体的事例を通して様々な場に対応できるよう演習をしていきます。グループ討議、クラスでのまとめへと展開する過程において考えを深め、多角的な視点をもつことができるよう意識しながら取り組みましょう。 ワークシート、配布資料等のファイルを準備して授業時、持参してください。									

## 幼児教育学科

科目名: 子どもの理解と援助			担当教員 氏名: 長谷 尚子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	専門科目	演習	6単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 保育士としての実務経験を生かして、子どもの発達や学びの関する知識をさまざまな視点から理解できるように授業していく。									
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
<ul style="list-style-type: none"> <li>保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。</li> <li>子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。</li> <li>子どもを理解するための具体的な方法を理解する。</li> <li>子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。</li> </ul>					子ども理解・かかわり・援助				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力	子どもの発達や内実を理解し、必要な援助のあり方を学ぶ。								
B 専門的技術	発達における多面的な側面から子どもを捉え、理解できる。								
C 論理的思考力	発達における多面的な側面から子どもを捉え、理解できる。								
D 問題解決力	テーマに沿ってグループ討議し、理解し合う姿勢を身につける。								
H コミュニケーション力	課題のテーマに沿った発言や討論ができる								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	30 %
特記事項: ・上記「その他」は、授業中の態度、授業中の課題演習の提出状況などで評価する。 ・本科目では、アクティブラーニングの一環としてグループワーク、発表を行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは個人で取り組んだものに対して評価する。その他は、授業への取り組み姿勢やグループへの貢献度等に対して評価を行う。アクティブラーニングの一環として、グループワーク、発表を行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート等は評価終了後返却し、その後の学びを深めるために活かすよう指導する。									
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)				
					学修内容	学修に必要な時間(分)			
①保育における子ども理解の意義					【復習】①の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
②子どもに対する関わりと共感的理解					【復習】②の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
③子どもの生活や遊び					【復習】③の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
④保育の人的環境としての保育者と子どもの発達					【復習】④の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
⑤子ども相互のかかわりと関係づくり					【復習】⑤の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
⑥集団における経験と育ち					【復習】⑥の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
⑦発達における経験と育ち					【予習】①～⑥の復習 【復習】⑦の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
⑧保育の環境の理解と構成					【復習】⑧の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
⑨環境の変化や移行					【復習】⑨の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
⑩子ども理解のための観察・記録と省察・評価					【復習】⑩の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
⑪子ども理解のための職員間の対話					【復習】⑪の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
⑫子ども理解のための保護者との情報共有					【復習】⑫の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
⑬発達の課題に応じた援助とかかわり					【復習】⑬の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
⑭特別な配慮を要する子どもの理解と援助					【復習】⑭の復習・レポート不足部分を再考補足	【復習】30分			
⑮発達の連続性と就学への支援・まとめ					【予習】全体の復習をする	【予習】60分			
使用テキスト: ①子どもの理解と援助 <中央法規> 978-4-8058-5790-8 ② 保育所保育指針解説書					その他参考文献など: 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実践に即して様々に対応できるように、具体的事例を通して演習をする。課題に対して自分の考えを持ち、グループワークが充実するよう積極的に授業に参加してほしい。									

## 幼児教育学科

科目名: 子ども家庭支援の心理学			担当教員 氏名: 石津 孝治		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	専門科目	講義	選択	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのよ子どもの精神保健の内容については、臨床心理士としての心理臨床経験に基づき、事例を提示しすること うな授業を行っているか: により、理解を深める。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
生涯発達に関する心理学的な知識を習得するとともに、現代の家族や子育て家庭の現 状を理解する。また、子どもの精神保健の基礎的な知識を習得する。					・生涯発達 ・現代の家族 ・精神保健
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 5. 6. 7.		
A 知識・理解力		各年齢の発達段階について保育実践と関連付けて理解できる。			
C 論理的思考力		発達における多面的な側面から子どもを捉え、理解できる。			
D 問題解決力		課題のテーマに沿ってレポートなどをまとめることができる。			
H コミュニケーション力		課題のテーマに沿った発言や討論ができる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 40 %	レポート: 60 %	発表: %	実技試験: %	その他: %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ダイアログ</u> グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題(0~2歳児の発達過程表、3歳~5歳の発達表)を返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①子ども理解における発達の把握(1)(0歳児前半の発達を理解する)			復習。ノートを整理する。疑問点をリス ト化し、調べる。	復習20分	
②子ども理解における発達の把握(2)(0歳児前半の発達を理解する)			復習。ノートを整理する。疑問点をリス ト化し、調べる。	復習20分	
③子ども理解における発達の把握(3)(1歳児の発達を理解する)			復習。ノートを整理する。疑問点をリス ト化し、調べる。	復習20分	
④子ども理解における発達の把握(4)(2歳児の発達を理解する)			復習。ノートを整理する。疑問点をリス ト化し、調べる。	復習20分	
⑤0~2歳児の発達過程表の作成(1)(各自文献などを調べ構想する)			復習。調べた内容の整理。	復習20分	
⑥0~2歳児の発達過程表の作成(2)(作成する)			課題を完成させる。	復習20分	
⑦子ども理解における発達の把握(5)(3歳児の発達を理解する)			予習。①~⑥までの内容の理解を 確認する。	復習20分	
⑧子ども理解における発達の把握(6)(4歳児の発達を理解する)			復習。ノートを整理する。疑問点をリス ト化し、調べる。	復習20分	
⑨子ども理解における発達の把握(7)(5歳児の発達を理解する)			復習。ノートを整理する。疑問点をリス ト化し、調べる。	復習20分	
⑩3~5歳児の発達過程表作成			復習。ノートを整理する。疑問点をリス ト化し、調べる。	復習20分	
⑪学童期・青年期の発達について学ぶ			復習。ノートを整理する。疑問点をリス ト化し、調べる。	復習20分	
⑫成人期・老年期の発達について学ぶ			復習。ノートを整理する。疑問点をリス ト化し、調べる。	復習20分	
⑬家族・家庭について学ぶ			復習。ノートを整理する。疑問点をリス ト化し、調べる。	復習20分	
⑭子育て家庭に関する現状と課題について学ぶ			復習。ノートを整理する。疑問点をリス ト化し、調べる。	復習20分	
⑮子どもの精神保健について学ぶ・全体のまとめ			授業内容全体の理解の確認	予習30分	
使用テキスト:			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					

## 幼児教育学科

科目名: 子どもの健康と安全			担当教員 氏名: 土居 和代			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	演習	6単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			実務経験事例をもとに講義及び具体的援助技術の演習			
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助、子どもの体調不良時の適切な対応について具体的に理解する。「アレルギー対応ガイドライン」「感染症対策ガイドライン」「事故防止及び事故発生時の対応ガイドライン」や近年のデーターなどに基づき具体的な対応を理解する					保育環境、衛生管理・事故防止・安全対策・危機管理・災害対策、ガイドライン	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	子どもの健康と安全について知識を身につける					
B 専門的技術	乳幼児の生命と健康を守るため、子どもの発達や状態に即した適切な対応を習得し活用できる					
C 論理的思考力	習得した技術を理論に照らし合わせ、状況や関係を把握して考えることができる					
F チームワーク・リーダーシップ	多者との信頼関係を築き、協調、協働して行動できる「私」になる					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: %	発表: 20 %	実技試験: 30 %	その他: 20 %		
特記事項: グループワーク原稿は5枚以上とし、発表はディベートを実施する。授業計画は④⑫⑬回目						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: グループワークは原稿を作成し4.12.13コマで発表し評価する。8コマと14コマで小テスト実施。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストは返却時に解説する。演習時の実技を評価する。						
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)	
					学修内容	学修に必要な時間(分)
①子どもの健康と保育環境—感染症の予防					【予習】厚労省の感染予防ガイドラインに目を通す	120分
②子どもの保健に関する健康及び安全管理					【予習】交通安全と子どもを守る園外活動について考える	180分
③子どもの健康と発育					【予習】運動機能・精神発達について読む	120分
④子どもの身体発育と評価 子どもの特性と基本的な生活習慣					【予習】自分の母子手帳で自分の発達・発育を知る	120分
⑤日常に必要な養護(おむつ交換・抱っこ・おんぶ・沐浴)演習					【予習】抱っこひもやおんぶひもはどんな種類があるか調べておく	120分
⑥子どもの生理機能測定(体温・呼吸・脈拍)や身体測定(体重・身長等)の演習					【予習】教科書第6章乳幼児の生理機能の測定を読む	120分
⑦災害の影響から子どもを守る					【予習】災害時に起こる困りごとを調べる	120分
⑧乳幼児の一時救命処置の演習					【復習】CPR手順と救急車の呼び方をまとめる	120分
⑨乳児の授乳支援(搾母乳の取り扱い・人工ミルクを作る)					【予習】人工乳、母乳、搾母乳の利点、欠点を調べる	120分
⑩子どもの食事(離乳食・補完食・BLW)支援					【予習】厚労省のガイドラインに目を通す	180分
⑪子どもの基本的な生活習慣の確立に向けて					【復習】生活習慣の要点をまとめる	120分
⑫子どもの事故の特徴とその予防					【復習】子どもの事故が多い場所や理由などをまとめる	120分
⑬個別的配慮を要する子どもへの対応(アレルギー性疾患、小児糖尿病)					【予習】厚労省のアレルギーガイドラインに目を通す	120分
⑭乳幼児の異常症状と怪我・事故の応急手当					【復習】対処及び予防をまとめる	120分
⑮障害を持つ子どもと家族への関わり方					【復習】障害を持つ子どもの関わり方をまとめる	120分
使用テキスト: 子どもの健康と安全 (中山書店) 編集/執筆大西文字 ISBN978-4-521-74777-4				その他参考文献など: 資料適宜配布・「育児見典(全2冊)病氣編」著 毛利子来 山田真 (岩波書店)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 教科書のワークシートを利用、共有し、予習、復習が繋がりをもち学ぶ機会になることを期待します。						

## 幼児教育学科

科目名: 教育課程総論		担当教員 氏名: 岩田 郁代			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 幼稚園教諭としての実務経験を活かして、教育課程について具体的かつ子ども姿をイメージできるように講義を構成し教授する。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
幼稚園教育要領・保育所保育指針を基準として編成される教育課程・全体的な計画(保育課程)について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各園の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。					保育の基本と、教育課程、全体的な計画(保育課程)、長期の指導計画と短期の指導計画、カリキュラム・マネジメント
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)					
A 知識・理解力		教育課程や指導計画の意義、教育課程の編成の方法、カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。			
C 論理的思考力		指導計画の実際について考える力を身につける。			
H コミュニケーション力		学んだことをグループ討議などで発表し、理解し合う姿勢を身につける。			
F チームワーク・リーダーシップ		行事の企画・運営・準備・実践を通して、他者と協力・協働しながら保育者のあり方を学ぶ。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 40 %	レポート: 20 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: 上記「その他」では、授業での参加姿勢・態度や模擬保育の計画・準備・実践・振り返りなどの取り組みを授業時のミニレポートも含め評価する。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 定期的にミニテスト及び中間テスト、期末テストを実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: ミニテスト等を評価終了後返却し、その後の学びに生かすよう指導する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①保育の基本について(戦前～現在～今後)			【予習】①の予習【復習】①の復習	【予習】130分 【復習】130分	
②教育課程・保育課程について			【予習】②の予習【復習】②の復習	【予習】130分 【復習】130分	
③指導計画の作成の基本 (5領域・10の姿)			【予習】③の予習【復習】③の復習	【予習】130分 【復習】130分	
④0・1・2歳児の特徴と指導計画			【予習】④の予習【復習】④の復習	【予習】130分 【復習】130分	
⑤3・4・5歳児の特徴と指導計画			【予習】⑤の予習【復習】⑤の復習	【予習】130分 【復習】130分	
⑥長期の指導計画(期・月案・行事)			【予習】⑥の予習【復習】⑥の復習	【予習】130分 【復習】130分	
⑦短期の指導計画(週・日案)			【予習】⑦の予習【復習】⑦の復習	【予習】130分 【復習】130分	
⑧保育の実践と評価・記録(PDCA)			【予習】⑧の予習【復習】⑧の復習	【予習】130分 【復習】130分	
⑨指導計画の実際(1)(指導案について)			【予習】⑨の予習【復習】⑨の復習	【予習】130分 【復習】130分	
⑩指導計画の実際(2)(教材研究について)			【予習】⑩の予習【復習】⑩の復習	【予習】130分 【復習】130分	
⑪指導計画の実際(3)(模擬保育について)			【予習】⑪の予習【復習】⑪の復習	【予習】130分 【復習】130分	
⑫指導計画の実際(4)(互見保育について)			【予習】⑫の予習【復習】⑫の復習	【予習】130分 【復習】130分	
⑬指導計画の実際(5)(評価・改善について)			【予習】⑬の予習【復習】⑬の復習	【予習】130分 【復習】130分	
⑭保護者・地域との連携・子育て支援・延長保育・預かり保育			【予習】⑭の予習【復習】⑭の復習	【予習】130分 【復習】130分	
⑮教育課程・指導計画の改善			【予習】⑮の予習	【予習】260分	
使用するテキスト: 「保育の計画と評価―豊富な例で1からわかる」萌文書林978-4-89347-272-4「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」文部科学省978-4-8054-0299-3			その他参考文献など: 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 学習課題に対して自分の考えが持てるよう、主体的に授業に参加してほしい。・随時資料を配布する。ファイルをして保管し、毎回授業時に持参すること。					

## 幼児教育学科

科目名: 保育内容総論			担当教員 氏名: 専任教員、若山 育代			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
園生活全体を通して総合的に展開される保育内容について学び、具体的な幼児の姿と関連づけたら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身に付ける。						・保育内容 ・発達 ・遊びの意味 ・総合的 ・環境
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	保育所保育指針と幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園における保育内容を理解する。					
A 知識・理解力	保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解を深める。					
A 知識・理解力	保育内容の点から幼児の発達を理解する視点について学ぶ。					
B 専門的技術	環境を通した総合的な援助や教育内容の相互関連性を、実践を通して理解する。					
F チームワーク・リーダーシップ	行事を企画・運営することを通して、他者と協同・協働しながら指導者としての力を付ける。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 20 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 80 %		
特記事項: 知識を問うテストと授業時間内ノートと授業時間外ノートの提出で70%【若山担当】、行事に向けての取り組み(計画・準備・実践を含む)への評価で30%【藤井担当】とし、合計した得点を成績評価得点とする。評価材料のうち、一つでも0点があった場合は、単位を認めないこともある。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期-知識を問うテストは15回目に実施する。授業時間内ノートと授業時間外ノートは第15回授業で回収する。第8～12回に保育所の5歳児を招待したクリスマス会を企画・準備し、第12回を発表の機会とする予定(保育所の予定に合わせて時期を変更する可能性がある)。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 回収した授業時間内ノートと授業時間外ノートは成績認定後に返却する。						
授 業 計 画						準備学修(予習・復習等)
						学修内容
①【若山】幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と保育内容						【予習】①の予習、【復習】発展課題 180分
②【若山】遊びによる総合的・一体的な保育および乳児理解-乳児期の子どもの保育に関するねらい及び内容-						【予習】②の予習、【復習】発展課題 180分
③【若山】遊びによる総合的・一体的な保育および幼児理解-満1歳以上満3歳未満の子どもの保育に関するねらい及び内容-						【予習】③の予習、【復習】発展課題 180分
④【若山】保育内容の歴史の変遷						【予習】④の予習、【復習】発展課題 180分
⑤【若山】遊びによる総合的・一体的な保育および幼児理解-満3歳以上の子どもの保育に関するねらい及び内容-						【予習】⑤の予習、【復習】発展課題 180分
⑥【若山】環境を通して行う教育						【予習】⑥の予習、【復習】発展課題 180分
⑦【若山】養護と教育が一体的に展開する保育						【予習】⑦の予習、【復習】発展課題 180分
⑧【若山】保育における記録						【予習】⑧の予習、【復習】発展課題 180分
⑨【若山】主体的・対話的で深い学びと幼小接続						【予習】⑨の予習、【復習】発展課題 180分
⑩【若山】グローバル時代の幼児教育とテスト						【予習】⑩の予習、【復習】発展課題 180分
⑪【専任】幼稚園教育における指導計画について 長期計画と短期計画						【予習】⑪の予習、【復習】発展課題 180分
⑫【専任】幼稚園教育の展開と指導方法 模擬保育(1)行事の計画・立案						【予習】⑫の予習、【復習】発展課題 180分
⑬【専任】幼稚園教育の展開と指導方法 模擬保育(2)情報機器及び教材の活用・研究						【予習】⑬の予習、【復習】発展課題 180分
⑭【専任】幼稚園教育の展開と指導方法 模擬保育(3)行事運営						【予習】⑭の予習、【復習】発展課題 180分
⑮【専任】幼稚園教育の展開と指導方法 模擬保育(4)五領域の視点からの評価・反省						【予習】⑮の予習、【復習】発展課題 180分
使用テキスト: ①文部科学省 2018『幼稚園教育要領解説』 ②厚生労働省 2018『保育所保育指針解説書』 ※全て前期に購入済 ③2018『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』						その他参考文献など: 「保育内容総論」民秋言、吉村真理子 「保育内容総論」大豆生田啓友、柴崎正行
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 初回の講義で準備学修(予習・復習)等についての詳細資料を配布します。						



幼児教育学科					
科目名: 保育内容(表現)			担当教員 氏名: 岡野 宏宣・大川晶也		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	専門科目	演習	選択必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。				・領域「表現」、造形表現・音楽表現 ・ミュージカル・ICT	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8	
A 知識・理解力	「領域」表現の基礎知識を知り、幼児の表現や発達にあった表現活動について学ぶ				
B 専門的技術	表現の基礎技能や伝承遊びやICTなどを学び、幼児の表現活動に展開させることができる				
D 問題解決力	表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について考察することができる				
H コミュニケーション力	協力して演じたりすることを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 50 %	発表: 30 %	実技試験:	%
その他: %					
特記事項: 『レポート(50%)』は、授業・演習・制作のふりかえりレポートと期末レポートである。『発表(50%)』は、課題のプレゼンテーション発表やミニミュージカルの実演である。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各回ごとに振り返りレポートを課す(制作課題の場合もある)。15回目終了時に期末レポートを出題する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業・演習・制作ふりかえりレポートにコメントする。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
第1回(共同): 幼稚園教育要領における幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けの理解			事後: 授業の振り返り	60	
第2回(大川): 幼児の素朴な表現についての理解 (生活の中の音探し・色探し)①			事後: 授業振り返り	60	
第3回(大川): 幼児の素朴な表現についての理解 (生活の中の音探し・色探し)②			事後: 授業の振り返り	60	
第4回(大川): 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開する ・様々な楽器を使った音楽表現			事後: 授業の振り返り	60	
第5回(大川): 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開する ・伝統芸能や伝承遊びから多様な表現を学ぶ			事後: 授業・演習の振り返り	60	
第6回(岡野): 表現を生成する過程を学び、幼稚園教育における評価の考え方を理解する			事後: 授業・演習の振り返り	60	
第7回(岡野): 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開する ・自然環境を生かした造形表現から			事後: 授業の振り返り	60	
第8回(岡野): 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開する ・ICTを活用した表現の事例を知る			事後: 制作の続き・振り返り	120	
第9回(大川): 様々な表現を感じる・見る・聴く楽しむことを通してイメージを豊かにする ・劇遊びと舞台表現を通して			事後: 制作の続き・振り返り	120	
第10回(共同): 身の周りのものを通して身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現を行う① ・ミュージカルを通して(素材感を生かした舞台作り)			事後: 授業の振り返り	120	
第11回(共同): 身の周りのものを通して身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現を行う① ・ミュージカルを通して(素材感を生かした舞台作り)			事後: 制作の続き・振り返り	120	
第12回(共同): 身の周りのものを通して身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現を行う② ・ミュージカルを通して(様々な素材を使った音作り)			事後: 演習の振り返り	120	
第13回(共同): 協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげる ・ミュージカルの発表 (ミニミュージカル)			事前・事後: 予習・振り返り	120	
第14回(岡野): 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析する			事後: 授業の振り返り	120	
第15回(岡野): 領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けて行く内容の関連性及び小学校教科等との繋がりを理解する			レポートの作成	180	
使用テキスト: 必要に応じて資料を提供します。			その他参考文献など: 「幼児造形の基礎・乳幼児の造形表現と造形教材」樋口一成(編著)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 課題制作がある授業のため、毎回欠かさず出席して下さい。やむを得ない理由で課題の進行が遅れた場合は、自ら時間を作り、各課題のまとめの時間までに遅れを取り戻してください。					

## 幼児教育学科

科目名: 保育内容(音楽表現)の指導法				担当教員 氏名: 大川 晶也			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 実務で行っている音楽表現法を学生が実践体験をし学生が保育現場に活用し、実践経験を積んで行く授業を行う							
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード	
色々な音への興味を持ち、日常的な音(声や言葉・楽器・身体等)を感じ、多手段で表現する楽しさを発見する。また、それらを演習(体験)することによって、実際の子ども理解を深め、様々な音楽表現活動を実践するための方法を習得(考案)する。普段の保育から積み重ねて発表へ繋げる手法を学ぶ。						言葉とリズム・音の持つ力(協調性、安心感、安定感、集中力、自尊感情、自己確立、身体機能維持発達促進etc)脳と音楽・クリエイティブ(創造性)・ユニバーサルデザイン	
授業における学修の到達目標							
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)							
A 知識・理解力			自分自身が演習することによって、様々な対象となる子ども達を理解し、日常使う言葉や動作を使って、相手に合わせた対処法を創案できる力(知識)を養う。				
B 専門的技術			音や音楽、リズム(言葉)等で感じたことを楽しく表現する中で、保育現場で活用できる音楽表現を習得し、それから派生した多種の専門技術を習得する。				
E 自己管理能力			日常の音に興味を持つ、語感で表現する楽しさを演習することによって、自尊感情や言語表現力を促進し自己管理能力を高める事につなげる。				
F チームワーク・リーダーシップ			音やリズム(言葉)で感じたことを楽しく表現する中で、ファシリテータ演習により、自他を理解しながら信頼関係を築き共有し、お互いを思いやりながら積極的に活動する。				
H コミュニケーション力			相手の表現をバーバル&/ノンバーバルを通して理解する様に努める事で、クリエイティブ&ユニバーサルデザインが促進され、子ども・保護者・周囲の人々とコミュニケーションをとることができる。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする							
テスト: 30 %		レポート: 20 %		発表: 40 %		実技試験: %	
その他: 10 %							
特記事項: 上記「その他」においては、授業への意欲・取り組み方・態度や姿勢を重視し、到達したという結果は勿論だが自己能力向上率を最重視する。本科目ではアクティブラーニングの一環としてグループワーク、発表、実習を行う。							
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> <u>実習、フィールドワーク</u>							
・発表・実技試験等の実施時期: 適宜 ・実技発表・実践及び課題提出(レポート)を行う予定。							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:ペーパーテストは採点し返却する。発表・実技・実践はその都度コメントします。							
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)	
						学習内容	学習に必要な時間(分)
①音楽表現のねらい、授業内容、全体構想についての説明(表現とは)						【予習】活動内容の予習	60分以上
②音楽表現指導法Ⅰ(言語表現)Ⅰ(音楽の力・ユニバーサルデザイン)						自主練習、グループ練習	60分以上
③音楽表現指導法Ⅱ(言語表現)Ⅱ(音楽表現のコミュニケーション)						自主練習、グループ練習	60分以上
④音楽表現指導法Ⅲ(音楽表現)Ⅰ(リズムの力・発達のコミュニケーション)						自主練習、グループ練習	60分以上
⑤音楽表現指導法Ⅳ(音楽表現)Ⅱ						自主練習、グループ練習	60分以上
⑥音楽表現指導法Ⅴ(言語表現 音楽表現)						自主練習、グループ練習	60分以上
⑦中間発表						【復習】活動のレポート作成	60分以上
⑧音楽表現指導法Ⅵ(インクルーシブの実践法について)						【復習】楽器名や指導法覚える	60分以上
⑨音楽手遊び(指導案作成)Ⅰ						自主練習、グループ練習	60分以上
⑩音楽手遊び(指導案作成)Ⅱ						自主練習、グループ練習	60分以上
⑪音楽手遊び(指導案作成)Ⅲ						自主練習、グループ練習	60分以上
⑫音のするもので遊ぶ(絵本と音楽表現)Ⅰ						自主練習、グループ練習	60分以上
⑬音のするもので遊ぶ(絵本と音楽表現)Ⅱ						自主練習、グループ練習	60分以上
⑭ リトミック①						【復習】活動のレポート作成	60分以上
⑮ リトミック②						【予習】授業全体活動を確認	60分以上
使用テキスト:ユニバーサルデザインの音楽表現(萌文書林)				その他参考文献など:			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):動きやすく調整可能な服装(スカート禁止)で授業を受けてください。音楽室の場合はヒールの低い安全な靴で参加すること。							

## 幼児教育学科

科目名： 乳児保育Ⅱ			担当教員 氏名： 長谷 尚子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 保育士としての実務経験を生かして、乳児保育の実際や援助を、乳児保育Ⅰで学んだ知識を基盤にして実践に即して使えるように演習を中心とした授業を実施する。						
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
1. 3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。						遊び・生活・健康・安全・保育環境
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	乳児保育に必要な専門的な技術を習得する。					
B 専門的技術	乳児の発育や発達の基本、かかわりや援助の実際を学ぶ。					
F チームワーク・リーダーシップ	他者と信頼関係を築き、目標実現のため協力し共に育ちあうことができる。					
G 倫理観	保育士として求められる価値と倫理に従って行動できる。					
H コミュニケーション力	言語や表情を用いて、自己・他者の理解を深めるコミュニケーションができる。					
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト：	%	レポート： 50 %	発表： 20 %	実技試験：	%	その他： 30 %
特記事項：レポートは個人で取り組んだものに対して評価する。その他は、授業への取り組み姿勢や受講態度、グループへの貢献度等に対して評価を行う。アクティブラーニングの一環として、グループワーク、発表を行う。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：レポート、授業態度により評価する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：レポート等は評価終了後返却し、その後の学びを深めるために活かすよう指導する。						
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)			
			学修内容	学修に必要な時間(分)		
①乳児保育の基本			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
②子どもの生活の流れ(0歳児クラス)			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
③子どもの保育環境(0歳児クラス)			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
④子どもの援助の実際(0歳児クラス)			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
⑤子どもの生活の流れ(1歳児クラス)			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
⑥子どもの保育環境(1歳児クラス)			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
⑦子どもの援助の実際(1歳児クラス)			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
⑧子どもの生活の流れ「2歳児クラス」			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
⑨子どもの保育環境(2歳児クラス)			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
⑩子どもの援助の実際(2歳児クラス)			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
⑪子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
⑫集団での生活における配慮			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
⑬環境の変化や移行に対する配慮			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
⑭長期的な指導計画と短期的な指導計画			【予習】教科書を読む 【復習】レポート不足部分を再考補足	【予習】30分 【復習】30分		
⑮個別的な指導計画と集団の指導計画・まとめ			【予習】乳児保育Ⅱ全体の復習	【予習】60分		
使用テキスト： ①乳児保育Ⅰ・Ⅱ<中央法規> 児童育成協会 978-4-8058-5795-3 ②『保育所保育指針解説書』				その他参考文献など：授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料も適宜配布する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：実践に即して様々に対応できるように、具体的事例を通して演習をする。課題に対して自分の考えを持ち、グループワークが充実するよう積極的に授業に参加してほしい。						

幼児教育学科						
科目名: 特別の支援を必要とする子どもの理解 I				担当教員 氏名: 堀江 修		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 保育エピソードや映像等により、具体的な子どもの事例に基づき授業を行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
特別の支援を必要とする幼児が、参加感や達成感をもちながら生活し、生きる力の基礎を身につけていくことができるよう、幼児の学びや生活上の困難を理解し、個別的教育的ニーズに対して、他の保育者や関係機関、保護者と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識・支援方法を理解する。						障害 発達 支援 インクルーシブ保育
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	障害を正しく理解し、障害のある子の実態のとらえ方、支援の方法について理解することができる。					
B 専門的技術	障害の特徴を捉え、それらに必要な支援の方法や技能を習得する。					
D 問題解決力	演習を通して、障害のある子に対する支援の仕方や教材等を工夫して作ったり考えたりする。					
F チームワーク・リーダーシップ	演習を通して障害のある子どもへの支援方法を、話し合ったり協力し合ったり考える。					
G 倫理観	障害のある子どもの理解を通して人間観を深め、保育者としての倫理観を身に付ける。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: 授業に対する前向きな姿勢、授業の内容に対する興味、関心の向き方も評価する。						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜課題レポートを実施する。最終試験は、別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートについては、コメントし返却する。						
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)
						学習内容
						学習に必要な時間(分)
①障害を理解するとは						【復習】 30分
②障害児保育の制度と歴史的変遷						【復習】 30分
③インクルーシブ保育とは						【復習】 30分
④障害児の家族の心理						【復習】 30分
⑤障害児保育の基本と取り組み方						【復習】 30分
⑥支援を必要とする幼児の理解と支援(言葉の発達に障害のある子ども)						【復習】 30分
⑦支援を必要とする幼児の理解と支援(発達障害)①						【復習】 30分
⑧支援を必要とする幼児の理解と支援(発達障害)②						【復習】 30分
⑨支援を必要とする幼児の理解と支援(発達障害)③						【復習】 30分
⑩支援を必要とする幼児の理解と支援(知的障害、肢体不自由)						【復習】 30分
⑪支援を必要とする幼児の理解と支援(視覚障害、聴覚障害)						【復習】 30分
⑫障害はないが、特別の支援を必要とする子供の理解						【復習】 30分
⑬指導計画及び個別支援計画の作成						【復習】 30分
⑭関係機関、小学校との連携						【復習】 30分
⑮まとめ						【事後】課題レポート作成 60分
使用テキスト:				その他参考文献など: 障がい児保育の基礎(わかば社)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 近年、障害のある子どもも含めて多様な子どもたちが同じ施設とともに暮らし学ぶようになりました。障害児保育を学ぶ中で、子ども観、発達観、人間観など、保育者に必要な資質をしっかりと身に付けましょう。						

## 幼児教育学科

科目名: 幼児と音楽表現Ⅱ				担当教員 氏名: 大川、荒木、水上、林、佐々木 森田		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
実務経験を用いてどのよ、授業では音楽的知識を深めながら、様々な楽器によるアンサンブルの奏法を学び、童謡の歌唱力も高め うな授業を行っているか: ていく。ピアノは個人レッスンでレパートリーを増やししながら個々の能力を高めていく。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
音楽の基礎的理論を学び、確かな読譜力を身につけ、各楽器によるアンサンブル演奏 法を習得する。またピアノ、声楽の実技指導によって演奏力、歌唱力を高め、童謡のピ アノ弾き歌いができるようになる。						読譜力 歌唱法 ピアノ奏法
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)			
			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10			
A 知識・理解力			音楽の基礎的理論を学び、楽譜の理解に繋げる。			
B 専門的技術			ピアノ、声楽の実技指導によってピアノ演奏力、歌唱力を身につける。			
H コミュニケーション力			レッスンや合唱、アンサンブルを通して、自分の思いや考えを伝える力を育てる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 30 %	レポート: %	発表: %	実技試験: 50 %	その他: 20 %		
特記事項:「その他」の20%はピアノのレッスンにおける評価。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業におけるテストとピアノ・声楽の実技試験は別に定めた日時に行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 学生個々に評価を伝え、必要に応じて個別指導を行う。						
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)
						学習内容
①【大川・荒木】ト長調の音階 伴奏付け(変奏1) 童謡1【大川、他】ピアノレッスン童謡弾き歌い1						自主練習 60分以上
②ト長調の和音1 伴奏付け(変奏2) 童謡2 童謡弾き歌い2						自主練習 60分以上
③ト長調の和音2 伴奏付け(変奏3) 童謡3 童謡弾き歌い3						自主練習 60分以上
④ヘ長調の音階 伴奏付け(変奏4) 童謡4 童謡弾き歌い4						自主練習 60分以上
⑤ヘ長調の和音1 トーンチャイム・Mベル 1 童謡5 童謡弾き歌い5						自主練習 60分以上
⑥ヘ長調の和音2 トーンチャイム・Mベル 2 童謡6 童謡弾き歌い6						自主練習 60分以上
⑦その他の音階1 トーンチャイム・Mベル 3 童謡7 童謡弾き歌い7						自主練習 60分以上
⑧中間発表 中間発表						自主練習 60分以上
⑨その他の音階2 合唱 1 童謡8 童謡弾き歌い8						自主練習 60分以上
⑩移調 1 合唱 2 童謡9 童謡弾き歌い9						自主練習 60分以上
⑪移調 2 合唱 3 童謡10 童謡弾き歌い10						自主練習 60分以上
⑫作詞・作曲1 リズム 1 童謡11 童謡弾き歌い11						自主練習 60分以上
⑬作詞・作曲2 リズム 2 童謡12 童謡弾き歌い12						自主練習 60分以上
⑭楽語 リズム 3 童謡13 童謡弾き歌い13						自主練習 60分以上
⑮期末発表 期末発表						自主練習 60分以上
使用テキスト: ポケットいっぱいのうた(教育芸術社)・子どもの歌ベストテ ン(ドレミ出版)・歌う弾く表現する保育者になろう(音楽之友社)子どもの 歌ワークブック(みずほ出版)						その他参考文献など:
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 幼児と音楽表現Ⅱは授業に加えて、ピアノの個人レッスンを受講することになります。 授業での評価とピアノ実技の評価を合わせての単位を取得することができます。						

幼児教育学科						
科目名: 保育実習指導 I -②				担当教員 氏名: 藤井、小川、石津、岡野、宮越、大川		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。1年次の保育実習指導 I -②では、事前学習として実習計画の立て方等を学ぶ。事後学習としては、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理し、2年次の保育実習に備える。						・実習計画 ・実習報告書
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1, 4, 6, 9	
A 知識・理解力	保育実習の意義や方法を理解する。					
E 自己管理能力	保育実習に必要な手続きを行う。					
D 問題解決力	保育実習の計画を立てる。					
C 論理的思考力	実習報告書を作成し、各自の課題を整理する。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 100 %		
特記事項: 毎回の出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題や指導案等にコメントを記載して返却						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①夏休みの見学実習振り返り			【事後】①の復習	60		
②部分実習について			【事前】②の予習 【事後】②の復習	120		
③部分実習準備①			【事前】③の予習 【事後】③の復習	120		
④部分実習準備②			【事前】④の予習 【事後】④の復習	120		
⑤部分実習①			【事前】⑤の予習 【事後】⑤の復習	120		
⑥部分実習②			【事前】⑥の予習 【事後】⑥の復習	120		
⑦部分実習振り返り			【事前】⑦の予習 【事後】⑦の復習	120		
⑧事前訪問について			【事前】⑧の予習 【事後】⑧の復習	120		
⑨事前訪問 および 実習計画の作成			【事前】⑨の予習 【事後】⑨の復習	120		
⑩実習準備(教材研究・指導案の作成)①			【事前】⑩の予習 【事後】⑩の復習	120		
⑪実習準備(教材研究・指導案の作成)②			【事前】⑪の予習 【事後】⑪の復習	120		
⑫実習準備(教材研究・指導案の作成)③			【事前】⑫の予習 【事後】⑫の復習	120		
⑬保育実習 I -①の振り返り①			【事前】⑬の予習 【事後】⑬の復習	120		
⑭保育実習 I -①の振り返り②			【事前】⑭の予習 【事後】⑭の復習	120		
⑮実習報告書の作成			【事前】⑮の予習 【事後】⑮の復習	120		
使用テキスト: ①開仁志(編著)『これで安心保育指導案の書き方』<北 大路書房>ISBN: 978-4762826214 ②開仁志(編著)『実習日誌の書き方』<一藝社>ISBN: 978-4863590427 ③阿部恵・鈴木みゆき(編著)『教育・保育実習安心ガイド』<ひかりのくに>ISBN: 978-4564606717 ④鈴木みゆき(編著)『実習のヒントとアイデア』ISBN: 978-4-89347-022-5						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、保育実習 I -①を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。本科目の履修状況によっては、保育実習 I -①の履修を認めないことがあります。						

## 幼児教育学科

科目名: 保育実習 I -①				担当教員 氏名: 藤井、小川、石津、岡野、宮越、大川		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門科目	実習	選択	保育士資格指定科目(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		保育現場で具体的な実践を通して、保育知識を深め保育技術を高める。				
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
保育所における10日間の実習を通して、そこで生活する乳幼児、特に3歳未満児の生活や遊びを理解し、保育所の人的・物的環境や保育士の業務内容について具体的に理解を深める。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の役割・機能</li> <li>・保育所の環境</li> <li>・3歳未満児の生活と遊び</li> <li>・保育士の業務内容</li> </ul>		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2, 5, 6, 7, 8, 9		
A 知識・理解力		保育所のもつ機能・役割について具体的に理解する。				
A 知識・理解力		観察やかかわりを通して、乳幼児、特に3歳未満児の発達と生活への理解を深める。				
A 知識・理解力		3歳未満児の保育や保育援助について総合的に学ぶ。				
A 知識・理解力		保育の計画、環境構成、記録および自己評価等について具体的に理解する。				
B 専門的技術						
C 論理的思考力						
D 問題解決力						
G 倫理観		保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
その他: 100 %						
特記事項: 実習先保育所の評価に担当教員の評価を合わせ、総合的に評価する。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 イスカッション、ディベアー グループワーク プレゼンテーション <b>実習、フィールドワーク</b>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① ※実習先保育所のプログラムに沿って実習を行う。						
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						
使用テキスト:				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

## 幼児教育学科

科目名: 教育実習指導 I			担当教員 氏名: 宮越、小川、石津、岡野、大川、赤井			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	演習	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 学校現場における教員経験を活かして、幼稚園教諭としての資質や専門性について、実践的に指導を行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
教育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。1年次の教育実習指導 I では、事前学習として、教育実習の意義、幼稚園教諭や幼稚園の役割、実習計画の立て方を学ぶ。事後学習としては、実習報告書の作成を通して実習の成果をまとめ、各自の課題を整理し2年次の教育実習 II に備える。						・実習計画 ・実習報告書
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 4. 6. 9.	
E 自己管理能力			教育実習 I を通しての自己課題を確認する。			
E 自己管理能力			教育実習に必要な手続きを行う。			
D 問題解決力			教育実習の計画を立てる。			
C 論理的思考力			実習報告書を作成し、各自の課題を整理する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: % その他: 100 %
特記事項: 毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。 本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として、グループワークでの指導案作成やそれに基づいた模擬保育を行う場を積極的に取り入れる。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出レポートや指導案にコメントを記載して返却						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① 幼稚園、教育実習の意義、実習生の役割について				【復習】①の復習	60分	
② 外部講師による特別講義(実習生に期待すること)				【復習】②の復習	60分	
③ 実習計画の立て方・実習指導案(部分実習)の書き方について				【復習】③の復習	60分	
④ 部分実習指導案の作成				【復習】④の復習	60分	
⑤ 実習日誌の書き方について1(考察の書き方「子どもの姿の捉え方」を中心に)				【復習】⑤の復習	60分	
⑥ 実習日誌の書き方について2(考察の書き方「保育者の姿の捉え方」を中心に)				【復習】⑥の復習	60分	
⑦ 部分実習指導案に基づいた模擬保育				【復習】⑦の復習	60分	
⑧ 教育実習 I の振り返り・実習報告書の作成				【復習】教育実習全体の復習	60分	
使用テキスト:				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、教育実習 I を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。本科目の履修状況によっては、教育実習 I の履修を認めないことがあります。						



